保育園における自己評価　令和5年度

評価項目	評価内容（課題・改善策）
保育目標	各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり個々の発達にも留意したものを作成している。 保育者は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めている。
保育について	子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が」達成できるよう、必要な事項に配慮して保育を行っている。 子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築き、安全面も配慮しながら、好奇心が育まれる玩具や場所を用意したり、遊びを通してコミュニケーションを蜜にとるようにした。子どもたちが日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めている。
行事	行事の種類や実施回数は適切に行われている。次年度に繋がるよう、行事の計画・実施・改善の体制をとり、子どもたちの頑張りや成長を意識して記録を作っていきたい。
研修	研修に参加した保育者の研修報告書を全員が確認し、感想を記入していくようにした。
家庭・地域との連携	送迎時に子どもの様子を細かく伝えたり、保護者の思いや不安や心配を解消できるよう努めて、コミュニケーションをとるように心がけた。
安全対策	ヒヤリハットを毎日記入し、保育者全員が周知し改善策を確認している。園内・園外での情報共有を増やし、安全対策を徹底していくようにする。
情報発信	園だより・ホームページ・掲示板により定期的に保育の様子を更新している。情報管理に留意しながら、今後も続けていく。
情報保護	保護者・職員・園児に関する個人情報を適正に取り扱っている。
調理内容	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食育について見直しや改善をしていきたい。 調理員・保育者が連携し意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている。
健康管理	登園時に視診をし、顔色・機嫌・検温・健康状態を確認し、保護者からの伝言や連絡帳の内容を確認する。 睡眠中は5分おきに呼吸チェックを行っている。 一人ひとりの発達や、アレルギーなどを周知している。
事務管理	事務処理を迅速に処理処理することやデータの保存や整理を行い、書類を分かりやすく変更していった。 保護者対応や保育を援助することで保育園全体の把握に努める。